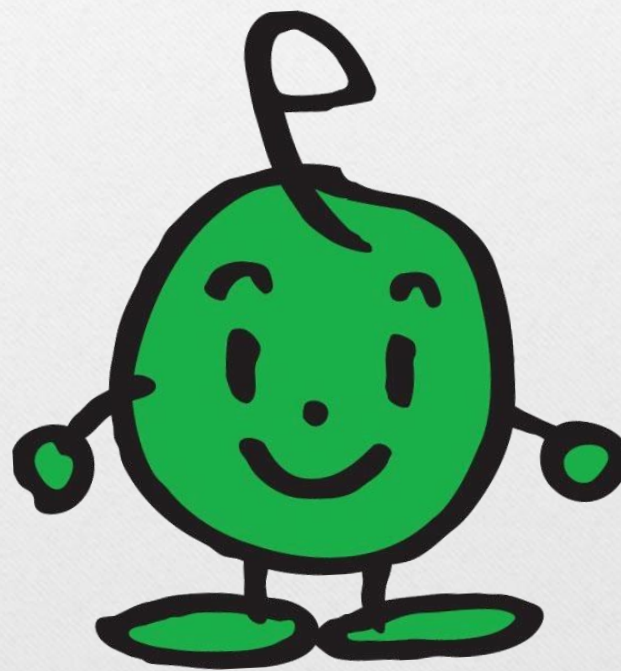


2023年度 こどもエコクラブ

メンバー
アンケート
結果報告書



公益財団法人日本環境協会
こどもエコクラブ全国事務局

調査のあらまし

こどもエコクラブのメンバーの状況及び活動の実態を把握し、こどもエコクラブが持続可能な社会づくりの担い手育成に対してどのように貢献しているか、またどのような将来展望に寄与しているかを明らかにするとともに、調査結果を関係者と共有し、今後の事業展開の参考としていきます。

【実施概要】

1. 対象：2023年度登録クラブのうち、活発に活動しているクラブを抽出
※一斉で打診のうえ活発に活動しているクラブを抽出、回答承諾のあったクラブにアンケートを実施させていただきました

合計 9クラブ

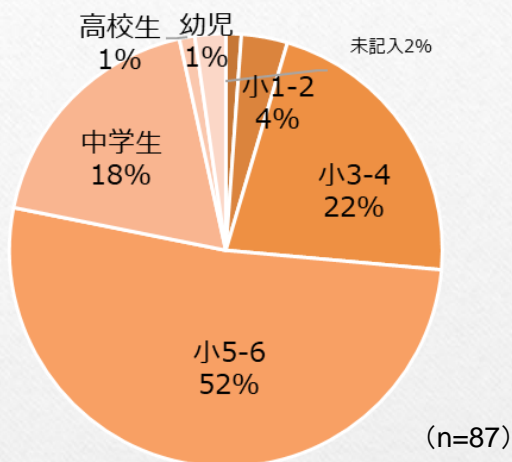
2. 実施期間：2024年2月14日～3月29日

3. 実施方法
サポーターを通してメンバーへの回答を依頼（郵送にて返送）

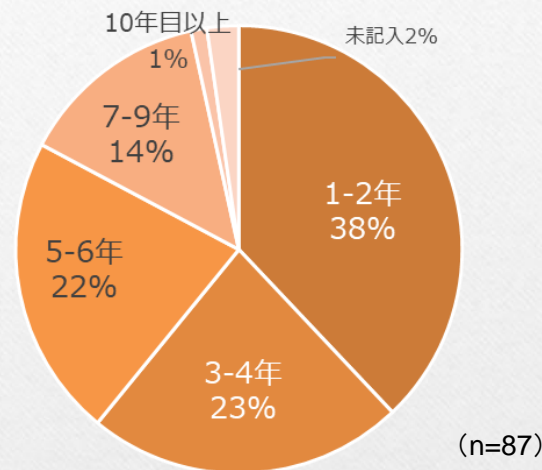
4. 有効回答数
回答：9クラブ87名 **合計：9クラブ 87名（回答率 100%）**

多様な年代の子どもたち（メンバー）からご回答いただきました

◆メンバー学年

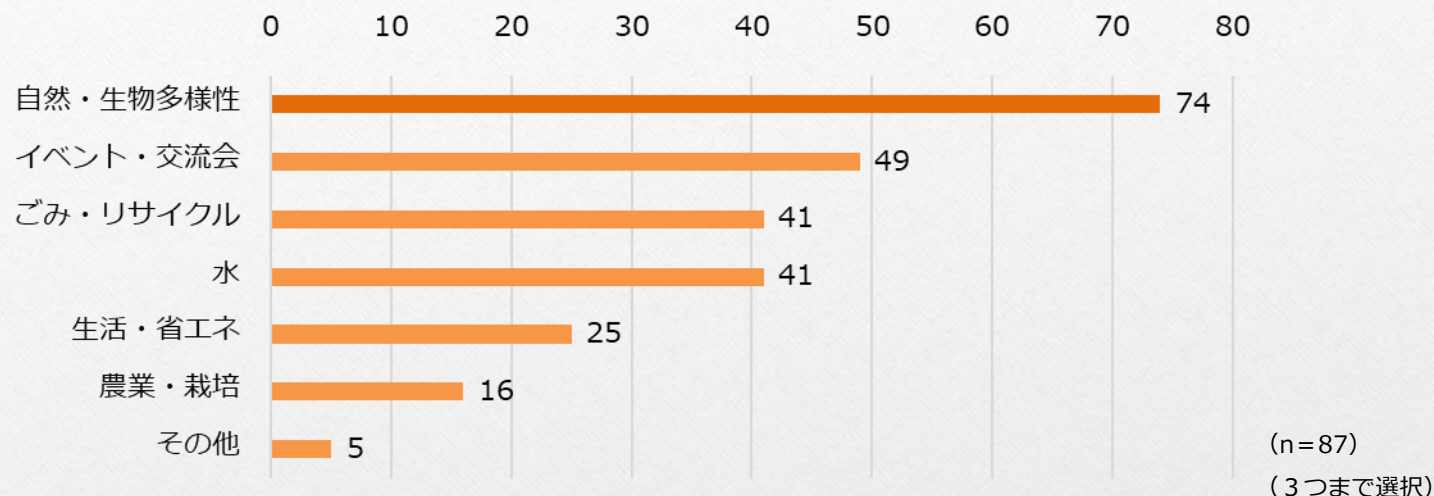


◆クラブへの参加年数



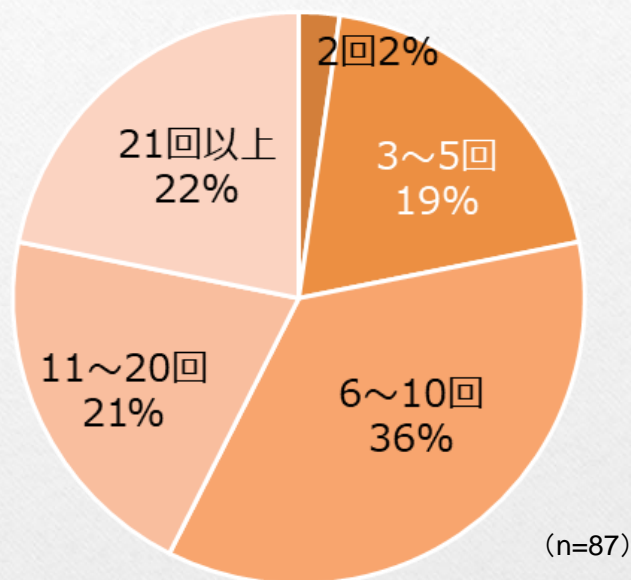
- 上の図はアンケートに回答をいただいたクラブのメンバーの学年、参加年数を表します
- 小4～6で全体の約6割となり、高学年中心の回答結果となりました（中学生は全体の24%でした）
- 参加年数については、1～2年が一番多く、6年以下が約8割を占めました
- クラブ自体は長く活動しつつ、新規メンバーが継続して加入しているクラブの回答が多いことがうかがえる結果となりました

多様な活動内容で活動を行っています



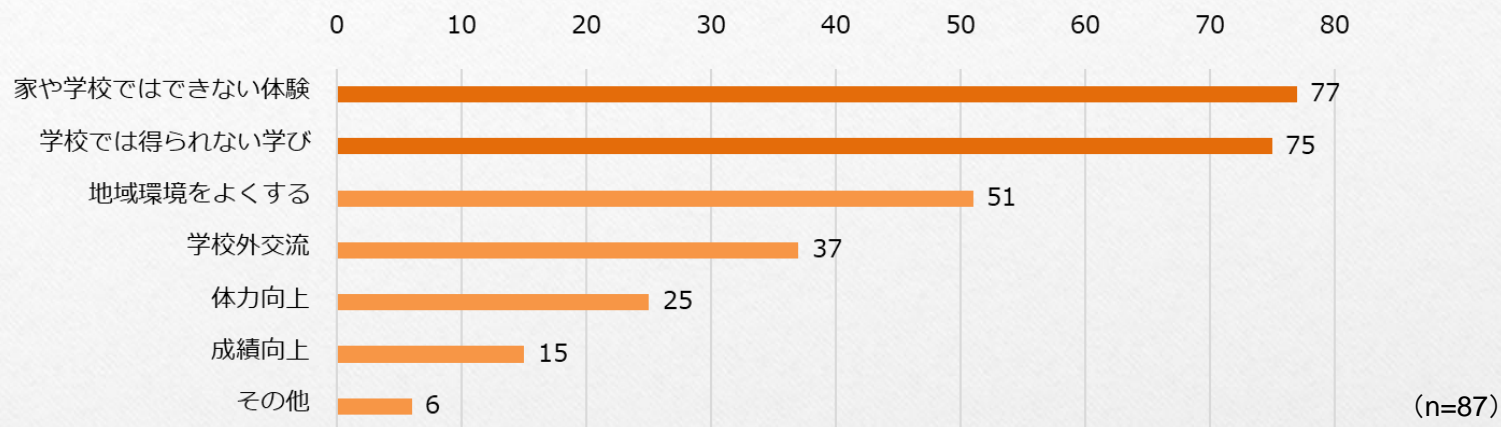
- 上の図は、クラブの活動内容を主なものを回答いただいたものです
- **自然・生物多様性が一番多く、8割以上のクラブが取り組んでいました**
- イベント・交流会が次に多く、約半数のクラブが取り組みをしていることがわかりました
- その他としては、壁新聞づくり、植林・間伐、図鑑作成等といった活動が挙げられています

継続した繰り返しの活動で子どもの成長を促しています



- 上の図は、1年間にクラブが行った活動の回数を表しています
- 6～10回が最多で36%を占めました
- ほぼすべてのクラブ（98%）で3回／年以上活動していることがわかりました
- **継続して繰り返し活動することにより子どもたちの成長を促すこどもエコクラブのコンセプトが浸透していることがうかがえます**

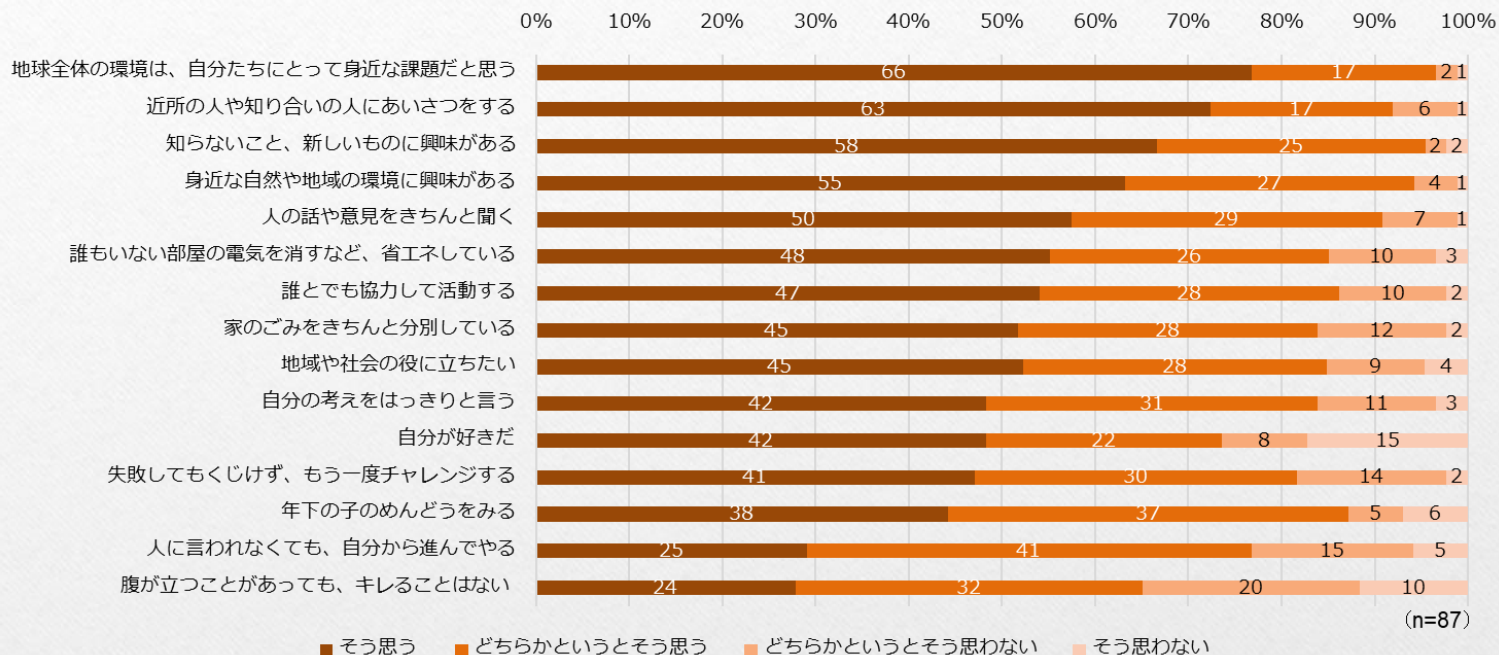
家や学校では得られない体験・学びにつながります



- 上の図は、こどもエコクラブに参加してよかったことを聞いた結果です
- 全体の約88%のメンバーが「家や学校ではできない体験ができた」と回答し、約86%のメンバーが「学校では習わないことを知ることができた」を回答しました
- その他「話すこと、伝えることが上手になった」「他学年との交流が増えた」「壁新聞のほかの人の発表を聞いて、自分の学校でもできるんじゃないかと思った」「学校の自然について学ぶじゅぎょうでエコクラブで分かったことをもとにし、考えることができた」「生き物がより好きになった」「町の事を好きになり大切にしようと思った」といった具体的な回答がありました

こどもエコクラブは、机上の学習では得られない体験・学びを得ることにつながります

こどもたちの自身も活動を通して積極性が芽生えています



- 上の図は、各項目について自分にどのくらいあてはまるかを聞いたものです
- 4段階評価の最高評価である「強くそう思う」の件数としては「地球全体の環境は自分たちにとって身近な課題だと思う」「近所の人や知り合いの人にあいさつをする」「知らないこと、新しいものに興味がある」が多い傾向でした

こどもエコクラブの活動は、環境問題を身近にとらえることはもちろん、コミュニケーション能力や知的好奇心の向上へも寄与すると考えられます。また、環境問題を「他人事」でなく「自分事」としてとらえる意識・価値観が芽生えていると推察できました。

未来への希望を持つ前向きな姿勢につながります

ジャンル	職業	回答数
芸術関係	イラストレーター（2）、漫画家（2）、声優（2）、絵本作家、ピアニスト、歌、音楽に関する職業、漫才、三味線の先生、小説家、指揮者等	13
生物関係	水族館や動物園、昆虫館等のスタッフ（4）、獣医、釣り番組のプロデューサー等	9
スポーツ関係	プロ野球選手（4）、水泳、運動にかかわる仕事、サッカー選手、プロバスケット選手	9
学者（科学者）	科学者（3）、生物学者（2）等	7
医療関係	看護師（2）、麻酔科医、言語聴覚士、臨床心理士	4
環境関係	環境を守る、環境に関わる仕事、環境局	4
教師・リーダー	こどもエコクラブのリーダー、生物の先生、英語の先生	4
食関係	パティシエ（2）、料理人、パン屋	4
アミューズメント系	テレビに出る、アイドル、バンダイの社員	3
福祉関係	保育士（3）	3
美容関係	美容師（2）	2
法律関係	弁護士、検察官	2
会社員	エンジニア、定職につく	2
その他	アナウンサー、製造業、洋服屋、鉄道運転士、自衛隊、消防士、漁師、笑顔にする仕事、人の役に立つ仕事	各1

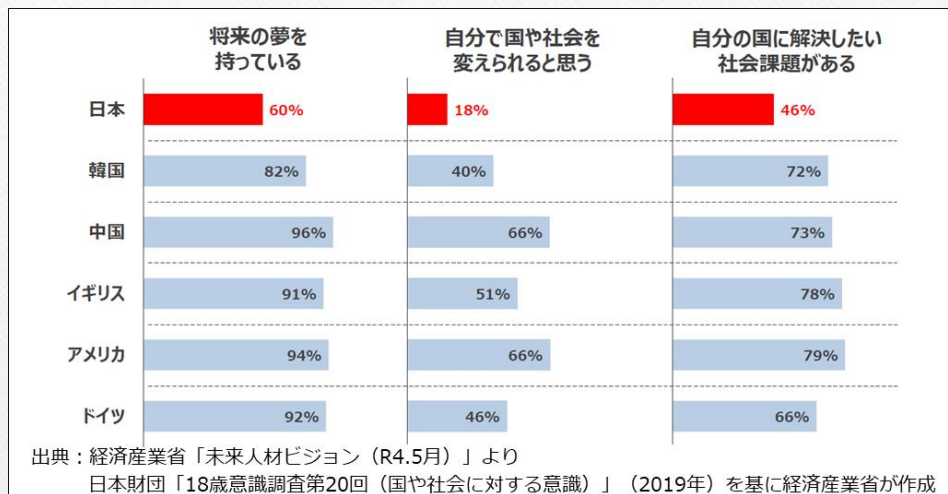
※ほか、まだ決めてない（4）、特にない（7）、未記入（8）

- 上の図は、将来なりたいものやつきたい職業について自由回答で聞いたものです
- 一番多かったものは、イラストレーターや漫画家、声優等の芸術系の職業（13件）でしたが、生物関係と科学者・生物学者を合計すると16件となり一番多い形でした
- 環境関係の仕事、教師やリーダー、保育士・看護師も多かった。**人と関わる、教える・伝えるといったことに興味関心があるメンバーが多い**と推測できます
- まだ決めていない、特にない、未記入の合計は19件、全体の約22%でした

こどもエコクラブでの活動を通して得たものは、**未来への将来の夢や職業に影響を与えている可能性があり、前向きな姿勢につながるもの**と考えられます。

未来への希望を持つ前向きな姿勢につながります（参考）

今回調査した「活発な活動をしているクラブのメンバー」は、約8割の子が何らかの「**将来の夢**」を持っているという結果がでました。



一方で、左図の通り、日本財団が2019年に実施した18歳意識調査によると、「**将来の夢を持っている**」子どもは約6割という結果があり、今回のアンケート結果と比較するとその数値は低いことがわかります。したがって、**こどもエコクラブの活動を通して自身の将来に夢を持ち、未来への希望を持つ前向きな姿勢が生まれていると考えられます。**

こどもエコクラブ全国事務局では、アンケート結果を活かしてクラブのみなさまのお役に立つ情報やプログラムを展開していきたいと思ひます。

ご回答いただきましたメンバーのみなさん、
アンケートに協力いただきましたサポーターのみなさま、ありがとうございました！

